

日本ソーラー・人力ボート協会

発行人JSHA

松井文雄

発効日 2009・10・31

会報 61 号

1. ご挨拶	八木正生	1～
2. お礼と感謝	堀内浩太郎	2～
3. ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2009報告書	八木正生	3～
4. 競技部、表話と裏話	内山 敦	7～
5. スピードメーターの紹介	堀内浩太郎	8～

ご挨拶

大会が無事に完了したことに付き、大会のために施設全般をお貸しくださった、新しい共催先である、日本モーターボート競走会の皆様と、大会の運営作業を手伝っていただいた、マリスのボランティアの皆様には感謝とお礼を述べさせていただきます。

本年度の大会は、サプライズの連続で、多くの協会員、参加者に多くの驚きと、不安を与えることが多かったことと思います。

実行委員会を立ち上げの時から、昨年10月のリーマンショック以来の経済不況をうけて、琵琶湖の鳥人間大会が、その他ソーラー自動車の大会が、軒並み中止になり、ソーラー・人力ボート大会もどのようにすべきか、話は奮闘し、昨年、一昨年の参加者全員に今年の大会の参加準備状況を電話アンケートを実施した結果、ほぼ全員の賛同が得られ、開会を中止することなく、実施することになりました。

静岡県に払う大会開催期間の港湾占用料、23万円の減額を関係部署に相談する矢先に、東海大学、の学内事情より、昨年並みの協力が、得られないとの話があり、以前より新開催地として検討していた、愛知県碧南の勤労青少年水上スポーツセンターに相談した所、8月中は無理だが、9月19～23日の連休は使用可能との連絡を受けました。

9月の開催は協会として初めてのことであるが、他の開催地の候補はなく、やむ終えず、9月19日～21日の開催に決定した。

その後、水上SCとの打ち合わせの際、宿泊、の部屋割りから、食事代金の徴収まで、参加者の手配全般を協会引き受けて欲しいとの依頼を、安請け合いに引き受けたことが原因で、大会当日まで、協会事務局の仕事の大部分を占めることになるとは予想だにしない事でした。

(旅館の番頭さんの仕事がどんなに大変な事か、良くわかりました。)

番頭さんのお仕事は、大会当日も続きました。「宿帳の記入」「浴衣、シーツの出し方」挙句の果ては、「畳を汚したチームの弁償金の支払い」まで、今までにない初体験の連続でした。来年の大会は、皆様のアンケートの結果によりますが、碧南の地で、8月末に出来れば、本年以上の大会になるものと、考えますが、如何でしょうか。

お礼と感謝

今年も選手の皆様、役員の皆様の絶大なご努力とご協力によりまして無事大会を終えることができました。厚く御礼申し上げます。

今年マリンスポーツ財団様のお取り計らいにより、レースの会場を碧南の勤労青少年水上スポーツセンターに移すことが出来ました。ここの水面はモーターボート選手会の専用水域であるために選手の免許が不要な上、水面使用に当たってお役所や漁業組合などへの交渉や手続きといった煩瑣な作業が省かれて、役員にとっては著しく手間が省けて助かったことでした。しかもマリンスポーツ財団の皆様と水上スポーツセンターの皆様、それに協会側と選手の皆様との間の緊密な協力が得られまして、無事盛大に大会を終えることが出来ました。

新会場のことですから、水面の形や設備が今までと変わって、選手役員とも面食らうことが多かったとは思いますが、結局は水上競技を良く知っている皆様のチームワークが生きたと思います。その上に立派な設備、波のない水面、広々とした芝生のピットなど良い事ばかり記憶に残ります。出来れば来年もこの会場を使わせて頂きたいものです。

足早に寒い季節を迎えております。来年の大会に向けて夢を育み構想を練る楽しい時期にして下さい。そしてまた来年、目を剥くような面白い船を見せて頂きたくお願い申し上げます。



「ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2009」結果報告書

期 日 平成21年9月19日(土)・20日(日)・21日(月)

場 所 愛知県 碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター

主 催 日本ソーラー・人力ボート協会

共 催 東海大学海洋学部、
財団法人 マリンスポーツ財団
社団法人 日本モーターボート選手会

後 援 国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省
碧南市、碧南市教育委員会、

協 賛 古河電池(株)、ローランドディー.ジー.(株)

参加数 20隻(ソーラー:5隻、人力:14隻、HB:1隻)

観客数 約 500名 (土日の2日間)

結果概要

ソーラーボート部門では、昨年の9艇参加より4艇減の5艇の参加に留まったが、不参加の理由としては、3年生の就職試験日と重なり参加が中止となった工業高校・チーム監督が腰痛の為、大学の活動計画の変更、など理由は種々あったが、来年には、是非とも参加したいとの返事を頂いた。

ソーラーボートA部門(水中翼艇)では、昨年不参加のローランドが参加し、都田チャレンジ、JRCソーラーの3艇の戦いであったが、200mではローランドが、1時間耐久では都田チャレンジが1位となり、優勝を分け合ったが、ソーラー部門の総合優勝は、都田チャレンジとなり、マリスカップを受賞した。

1周耐久レースでは、都田チャレンジ、ローランド両艇がデッドヒートを演じ、1000メ

ートルを走ったゴール地点で、僅か 0.72 秒の差で、都田チャレンジが勝者となった。

ソーラーボートB部門（排水型艇）は、前述した4艇が不参加となり、2艇のみの参加となり寂しいレースとなったが、吉田山コケタースの100mタイムトライアル時の成績13.28秒はソーラーA 優勝艇と同程度の成績であり、200m決勝レースで、水中翼艇と互角の戦いをするものと期待をしていたが、ラダー関係のトラブルか、走行安定性が悪く5位に終わったことは残念であった。

人力ボート部門は、昨年の参加チーム数と同じ11チームの参加であったが、5艇参加の東海大学が、1艇に、2艇参加の静清工業高校が、1艇になり、全チームが1艇参加の編成となった。

人力ボートA部門（水中翼艇）は、日本勢と韓国勢の戦いと成った。100mタイムトライアルでは、忠南大学を約1秒引き離れたチームコギトであったが、200m決勝では、スタートが遅れ、忠南大を追いかけるレースと成ったが、最後まで追いつくことが出来ず1秒弱のわずかの差で、6年連続の優勝を逃した。1周スラロームレースは、忠南大が機関の故障で、欠場、韓国海洋大学との戦いとなったが、チームコギトは王者の貫禄で、海洋大に1分20秒の大差をつけて優勝し、人力部門の総合優勝をはたし、何とか日本勢の面目を保つことが出来た。もしも、忠南大のマシーンが故障しなければ、どのような結果になったか、来年の大会が楽しみです。

人力ボートB部門（排水型艇）は前年同様チームMEW、ビレッジトップ、ひょうたん島の3艇の3つ巴の戦いが注目を集めていた。この3チームは、2日間の4レース全てに出場し、最後の1時間耐久レースも完走し、12艇中、3, 4, 5位の成績を残した。昨年は、ビレッジトップが出場全レースに優勝して、完全優勝を果たしたが、今年は、チームMEWが4レース中3レースに優勝して、昨年の屈辱を果たした。

成績（全クラス通算結果）は下記のとおり。クラス毎の成績は協会ホームページ、2009大会記録報告に掲載しておりますので、参照ください。

■ ショートレース（200m） 参加20隻

	クラス	チーム名	タイム
1着	ソーラーボートA	ローランドソーラー研究会	20秒97
2着	ソーラーボートA	都田チャレンジ	27秒39
3着	人力ボートA	忠南国立大学校	29秒97

■ 1周耐久レース（1周 約800m） 参加14隻

	クラス	チーム名	タイム
1着	ソーラーボートA	都田チャレンジ	2分49秒19
2着	ソーラーボートA	ローランドソーラー研究会	2分49秒21
3着	人力ボートA	チーム コギト	3分20秒56

■ 30分耐久レース（1周 約800m） 参加9隻

	クラス	チーム名	周回数
1着	人力ボートB	TEAM MEW	7周
2着	人力ボートB	TEAM ビレッジトップ	7周
3着	人力ボートB	ひょうたん島	7周

■ 1時間耐久レース（1周 約800m） 参加12隻

	クラス	チーム名	周回数
1着	ソーラーボートA	都田チャレンジ	17周
2着	ソーラーボートA	ローランドソーラー研究会	15周
3着	人力ボートB	TEAM MEW	12周

大会風景写真



ソーラーボート部門総合優勝
TEAM 都田チャレンジ
“WHITE HAWK S-15”
独特のハイクアウト姿勢でコーナ
ーをエネルギーロスなく航走していた。



1周耐久レースのゴール写真

手前が、1位の WHITE HAWK time 02:49.19

奥手が、2位の Soland time 02:49.91 その差は 0.02 秒であり、何cmの差？

審判室には1 / 1 0 0 0秒まで計測できる競艇場のスリットカメラがあります。

来年もこのようなシーンがあるならば、借用依頼をお願いしようと思いたしますが！！



人力ボート部門総合2位
人力ボート学生部門優勝
の勝利を勝ち取った、韓国チ
ームの NEW FACE 「韓国海
洋大学」コギトタイプの艇体
だが、軽量化の努力の跡が見
られた。



1年間の沈黙を破って
初公開の金沢工業大学
夢考房、ハイブリット
タイプのソーラーボ
ート。
初出場で、ソーラーボ
ート学生部門優勝を勝
ち取った。

競技部会より

2009 年度の大会を終え、初めての場所で何とか無事にレースが実施できました。これもひとえに関係者の皆様の知恵と汗の賜物であり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年の大会の開催場所が、碧南の「勤労青少年水上スポーツセンター」に決まってから、実行委員会では現地の視察と共に、機材の配置や競技の進行方法についての机上検討を繰り返してきました。もう何年もやっているレースではありますが、ロケーションが変わると課題がたくさん出てきます。パソコンはどこに置くか。電源はどこから取るか。スタートライン、ゴールラインは？ 等々。なんせ、我々は会場のことが判らず、スポーツセンター職員の皆様は、我々のレースのことはさっぱり判らずと、判らぬ者同士が話し合いをしても、なかなか要領を得ません。いろいろ仮想しながらの準備となります。

さて、あれこれ準備して迎えた大会前日。機材を設営している間に、事前の想定と違ういくつかの問題が出てきました。

- ① スタート信号用に想定していた、大時計が使えない。
- ② 放送施設はあるが、スピーカーがピット前の海面にしか向いていない。
- ③ 計測小屋はゴール地点にあり、放送施設はピット側にあるので、計測側でスタートをコントロールできない。
- ④ 上記をあてにしていたので、従来の信号灯も、音響機材も準備していない。

スタート信号が出せないと、競技ができません。これは焦りました。

その場で手に入る手段を組み合わせて、スタート信号を作り出すべく、あれこれテストし、結果として、なんとかスタート信号らしきものを作りました。

従来は、計測小屋のボタンひとつで10秒前カウントの音と信号灯が起動したのですが、今回は全てピット側からの肉声カウント、それを計測小屋がトランシーバーで聴いて手動の信号灯切替操作と、かなりエラーリスクの高い綱渡りスターターでした。

なんとか間違えずにスタートと計測ができたので、結果は OK でしたが、次回も同じ場所で開催することになったら、ここは改善せねばなりません。

選手の皆さんは、本番を前に緊急対応はしょっちゅうでしょうが、我々運営側も緊急対応に走り回っている、という裏話でした。 （文責：内山）

スピードメーターのご紹介

堀内浩太郎

皆さんがレースに使われる船のスピードが簡単に判ったら改造や性能向上の研究には大いに役立つ事でしょう。今までも船底にプロペラをつけたりしてスピードを測る道具はいろいろありましたが、取り付けも面倒なら大抵の場合は取り付けた後で距離の判ったコースを実際に走ってキャリブレーションをする必要がありました。ところが最近高速のヨットのスピードを測る装置が進歩して、簡単に使える計器が手に入るようになったのでご紹介したいと思います。このメーターは **GPS** によって速度を割り出すよう作られていて、対水速度ではなく対地速度を測るものですから、キャリブレーションのような面倒なことが要らないのです。



図1 スピードパック

図1はそのスピードメーターを示しています。ボタンがたった1個という簡単な構造です。そして青いボタンを一度押すと方位、2度目にスピード、3度目にはスイッチを入れた後で一番速かったスピード（10秒間継続した最高速）

を表示します。そしてスイッチを長押しすると表示が消えてオフになります。実物の直径は11.3cmですから図1の写真はほぼ実物大ということです。ヨットの上で、離れたところから見易いように数字の表示が大きく、なかなか使いやすく丈夫に出来ています。

注文先は下記の通りです。

会社名 (有) マリタイムトレーディング

所在地 横須賀市小川町28-1-1406

電話 046-826-3545

FAX 046-826-3570

代表者 橘 直美

メール info@bladerider.jp

価格は本体が¥36,500 マウントが¥4,000ですが、橘さんはソーラー&人力ボート協会関係、もしくは堀内に薦められたと言って頂くと10%引くとのことでした。

簡単に見える機械ですが、他にも船が走ったコースを覚えて、パソコンをつなぐとそのコースが描写できるそうです。私はスピードメーター、もしくは方位計としてしか使ったことがないので良く分かりませんが多彩な機能を持っているようです。今やモス級という小さいながら30ノットも出す水中翼ヨットの世界では一番よく使われているようです。